

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	文化財保護事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和46年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	法定事務
	基本事業	文化財を愛する心の育成	市民協働	委託事業
予算科目コード	01-100402-02 単独	根拠法令・条例等	文化財保護法 守谷市文化財保護条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
文化財保護法第190条に基づき、昭和52年に守谷市文化財保護条例を制定し、先人からの優れた遺産である文化財を適切に保護・活用し、未来に伝えていくこととした。	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保護審議会の答申に基づき、市内の文化財（未指定含む）に関する調査・評価を行い、特に価値の高いものについては指定（市、県）や記録保存等の措置を取る。 展示会や講座を開催したり図書類を刊行し、文化財や郷土史の理解を深める。 指定史跡や天然記念物の維持管理を行う。 埋蔵文化財の所在が見込まれる土地で土木工事等が行われる場合には、事前に試掘調査を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市内に存する有形無形の文化財を保護し、未来に伝えていくとともに、文化財愛護や郷土理解の心を育てる。	
（参考）基本事業の目指す姿	
地域の貴重な文化財を後世に継承し、活用する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
市民（特に若者）に郷土の歴史・文化を広める必要がある。 市指定文化財及び史跡を保護・保存していく必要がある。	随時：試掘・発掘調査 5月 文化財保護審議会 6月 文化財保護審議員自主自主研修会 7月 廿三夜尊エノキ樹勢回復業務 10月 廿三夜尊エノキ樹勢回復業務（2回目） 11月 守谷歴史さんぽ 1月 文化財愛護セミナー 2月 文化財保護審議会（2月）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
歴史散歩等で歴史的な文化財のあるお寺等を回り、郷土の歴史の資料を配布し啓発する。 守谷城址を、隣接する「守谷野鳥のみち」と合わせて貴重な地域資源としてPRする。	

次年度のコストの方向性（→その理由）

<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	郷土の歴史関連資料の印刷代が増加する。 守谷城址を保存するための管理を適切に行い、積極的な活用を図ることができるよう城址内の個人所有地の用地買収費を計上する。
--	--

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の取組（評価、課題への対応）
歴史に関心のある人が限られていることから、広い年齢層の人々が関心を持つようなイベントを行う。	市内の文化財や史跡、郷土の歴史を知ってもらうために、文化財保護週間に「もりや歴史さんぽ」を開催した。多くの参加者から次回開催の要望があるなど評判が良く、市民に守谷の歴史文化に関心を持ってもらうことができた。 文化財保護審議会委員による自主研修会を開催し、文化財に関する見識を高めた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
市内の指定文化財件数（有形）（件）	20.00	20.00	20.00	21.00	21.00
市内の指定文化財件数（無形）（件）	0.00	1.00	1.00	1.00	1.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	文化財や歴史に興味・関心のある人が限られている。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	文化財や歴史に関心を持ってもらうため、幅広い年齢層の人々が興味を持って参加できるようなイベント等を行う。 市内に現存・保管してある古文書を解読し、デジタルデータ化を検討する。			

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	1,099	704	572	11,313	898
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	1,099	704	572	11,313	898
正職員人工数（時間数）		441.00	196.00	134.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,808	818	550	0	0
トータルコスト		2,907	1,522	1,122	11,313	898